

住まい・まちづくり活動団体の実践的な取組みに関する調査
調査報告書

調査名称：鹿島市肥前浜宿地区における小学校児童による地区調査研究とその
展示発表を通じたまちづくりの展開に向けた調査
調査団体：肥前浜宿水とまちなみの会

2004年3月

財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

調査報告書

住まい・まちづくり活動団体の実践的な取組みに関する調査

調査報告書

調査名称：鹿島市肥前浜宿地区における小学校児童による地区調査研究とその展示発表を通したまちづくりの展開に向けた調査

調査団体：肥前浜宿水とまちなみの会

（１）活動の背景

肥前浜宿は、長崎街道の脇街道である多良海道沿いの宿場町で、その街道沿いに酒蔵が多く集積している町でもある。鹿島市ではその優れた歴史的環境を活かす地区として位置づけ、1998-89年に伝統的建造物群保存対策調査が行われ、重要伝統的建造物群保存地区選定に向けての取り組みを行っている。既に、2003年12月には鹿島市景観条例が制定され、審議会が立ち上げられ、地区決定等の作業などに取り組んでいるところである。また、一昨年から、伝建地区を補うものとして、街なみ環境整備事業（以下、街環）に取り組んでおり、昨年の住民協定締結後、今年度事業で事業計画が策定され、既に大臣承認が下りた状況である。

こうした状況の下、地元の住民まちづくり団体である肥前浜宿水とまちなみの会では、住民意識の向上のために様々な取り組みを行ってきた。そして、大人（特に土地所有者等）に関しては、既に住民協定の締結をもって概ねの理解がなされたと認識することができる。しかし、今後は、いかに次世代を担う子供たちに伝えるか、そして、子供たちが肥前浜宿の特質を理解し、それに誇りを持って住み続けることが重要な課題になっている。さらに、肥前浜宿のまちづくりに触れることによって、本物のよさや独自の生活文化についての認識も形成されると考えられ、そうした子供たちの声が出てきてこそ、今まで冷ややかであった一部住民の意識も変わることが期待できる。

（２）活動の経緯と目的

肥前浜宿水とまちなみの会では、上記の観点から、一昨年度より鹿島市美術人協会と連携して浜町スケッチ大会を実施している他、今年度からは「子供と一緒にまちづくり！」をスローガンに事業に取り組んでいる。具体的には、5月にスケッチ大会、10月には酒蔵コンサートの前舞台として鹿島実業高校生によるファッションショーを実施した。そして、それらは浜住民の意識向上だけでなく、鹿島市市民全体が肥前浜宿を大切にしようという声に結びついてきている。

また、浜小学校でも、今年度の総合学習として浜町研究が実施されることになった。これは、浜小学校が酒蔵通りのすぐ裏に位置しており、総合学習にとって格好の材料であるということと、これまでの肥前浜宿での取り組みが評価されてのことに他ならない。そして、水とまちなみの会の熊本会長（陶芸家）ならびに峰松昭次郎氏（板金職人）にもものづくり教室に関する協力依頼があり、それが研究発表会の直接的なきっかけになった。

以上の背景と経緯から、特に今回の活動では、以下のことを目的としている。

- ・ 浜小学生が浜町研究を行うのを支援すること。
- ・ 浜小学生がその成果を発表する機会をつくること。
- ・ 肥前浜宿のよさを浜町の大人と子供が共有すること。

- ・ 肥前浜宿独自の伝統的建造物と生活文化を生かすまちづくりについて、より多くの浜町住民ならびに鹿島市民の賛同を得ること。

(3) 活動の内容

今回の活動では、以下の3つを大きな柱とする。

- 1) 浜小学生による浜町調査研究とその展示発表会
- 2) 浜小学生との先進地視察（八女）
- 3) 次年度の準備（スケッチ大会、花と酒まつりなど）

具体的な内容は以下の通りである。

1) 浜小学生による浜町調査研究とその展示発表会

浜小学校では、今年度の研究を地域の「人」「もの」「自然」に焦点を絞っており、子供たちが自分たちの住む地域を見つめ直し、そこから自分なりに解決していく態度をつくることを目標としている。具体的には、総合学習の中で、各学年で地域の「人」「もの」「自然」に関わるテーマを設定し、その調査を行って発表するものである。

特に、調査内容は浜町における職人等の技術や建造物を調べたり体験したりするものであり、水とまちなみの会に所属する会員に個人的な依頼があった。具体的には、ものづくり体験教室として、伝統工芸会会員で陶芸家である熊本義泰氏（本会会長）ならびに佐賀県マイスター・国土交通省大臣賞を受賞した峰松昭次郎氏（本会会員）に協力依頼があった。また、浜町の伝統的建造物についての説明などをボランティアガイドが随時行った。

さらに、小学校での目標が調査結果をより多くの人に見てもらおうというものであったため、会としても町への還元を図るために、調査研究発表会を小学校に要請した。それが、展示発表会を共催で行った動機である。開催日を鮎市（1月の二十日恵比寿用の鮎を販売する鹿島独自の食の市）に合わせたのは、その時期であれば概ね成果ができあがることと、多くの人があるであろうということから来ている。

浜町調査研究

各学年の調査研究テーマは以下のように設定された。これらは、小学生たちの自主的発意によって設定されたものである。

3年生：酒蔵通りを有名にしよう！

～『酒蔵通り』ビッグマップを作って、たくさんの人に見てもらおう～

4年生：浜町の仕事（ものづくり）を紹介しよう！

～浜町物産館を開いて、たくさんの人に見てもらおう～

5年生：日本一健康な浜町をつくらう！

～健康で安心できる食生活を実現させよう～

6年生：日本一住みやすい浜町にするために、自分たちのできることをやってみよう

なかよし学級：浜町のみなさん、こんにちは。～誰と会えるかな～

以下は、各学年の調査研究の具体的な様子である。

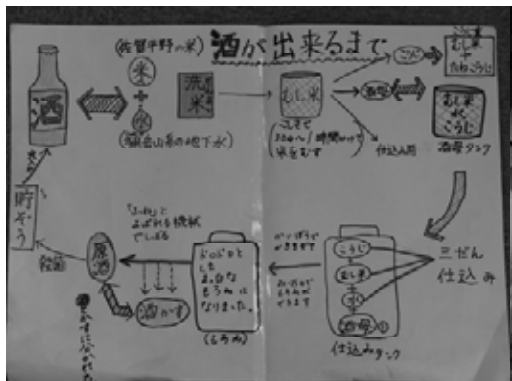
3年生：酒蔵通りを有名にしよう！



酒蔵通りには何があるのか。継場の調査などを行い、大きなマップをつくった。



4年生：浜町の仕事（ものづくり）を紹介しよう！



浜町の職業について調べた。

- ・ そばづくり
- ・ 板金
- ・ 陶芸
- ・ のり
- ・ むつごろう

多くの職業があり、特徴的である。



5年生：日本一健康な浜町をつくらう！



鹿島市そして浜町の特徴の一つに、発酵食品がある。
例えば、酒・漬け物など。この発酵食品を題材に、日本一健康な町をつくることを考えた。

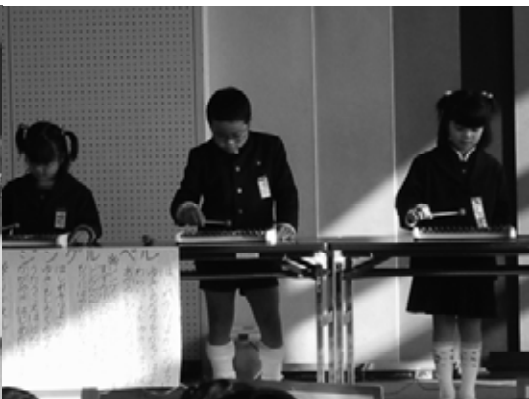
6年生：日本一住みやすい浜町にするために、自分たちのできることをやってみよう



浜町のポイントとなる場所の清掃を行った。
ゴミのない町を作りたい。



なかよし学級：浜町のみなさん、こんにちは。～誰と会えるかな～



自己紹介を兼ねた音楽生演奏「わくわくライブ」を行う。
毎日少しずつ練習した。

1-2 展示発表会

場 所：呉竹酒造東蔵

日 時：2004年1月18日(日) 10:00~11:15

主 催：浜小学校、肥前浜宿水とまちなみの会

参加者：スタッフ30名、浜小学生約200名、来場者約800名

- ・ 主催者挨拶(水とまちなみの会・熊本会長)
- ・ 来賓挨拶(鹿島市教育委員会・教育長)
- ・ 作品発表(1学年約15分)
 - 3年生：酒蔵通りを有名にしよう
 - 4年生：浜町の仕事「ものづくりを紹介しよう」
 - なかよし学級：「浜町のみなさんこんにちは」
 - 5年生：日本一健康な浜町を造ろう
 - 6年生：日本一住みやすい浜町にするために、
自分のできることをやってみよう

- ・ 作品展示

- 1年生：落ち葉などで造ったお面全児童分

- 2年生：「浜町あそびたんけん」

- 5年生：峰松板金さんと造った彫金

- 陶芸家熊本さんと造った陶器

- 昨年度の作品：

- 3年生の浜川水質調査結果

- ジャンボカルタ

- 陶芸体験の壁新聞

会場風景



東蔵の会場風景：大型スクリーンを用意して発表した。

壁沿いに、作品展示。



展示物



鮎市の様子



< 展示発表会に対する反応調査 >

展示発表会に参加した子供たちおよび大人に対して、アンケートを実施した。子供たちについては浜小学校で後日回収するようにし、大人については当日回収した。被験者数は、子供 138 名（6 年生：39 名、5 年生：28 名、4 年生：39 名、3 年生 32 名）、大人 52 名である。

浜小学校生の場合：

アンケート項目は、大きく、A) 研究したこと、B) 浜町のこれからである。その結果を示すと以下のようである。

A) 研究したこと

A-1: 自分の研究結果について

できた（74 名）とてもよくできた（43 名）と答えた者がほとんどであり、ふつう（18 名）あまりできなかった（1 名）を大きく上る結果が得られた。自ら考えて調査し、整理したことで、満足度が高かったと考えられる。

A-2: 浜町について（複数回答可）

いいところがたくさんある（118 名）、古くて立派な建物がたくさんある（113 名）、浜ならではの人がいる（63 名）、もっと調べてみたい（56 名）の順に高かった。ほとんどの生徒が浜町を高く評価していること、半数近くがもっと調べたいと感じていることが分かる。

B) 浜町のこれからについて

B-1: これからどうすればよいか（複数回答可）

古いものを大切に（128 名）、川の生き物を大切に（104 名）、たくさんの方が来るように（88 名）、便利な街にする（33 名）、車が少なく歩きやすい街にする（23 名）の順に高かった。子供たち自らが調べたことが、将来像にも結びついていることが分かるほか、ある程度の観光化を図って人が来る町にすることに期待を持っていることが読み取れる。

B-2: 浜町のこれからのために、何をしたいか（自由記入）

ゴミひろいと答えた者が多数を占め、その他、古いものを大切にしたり人を案内するといった答えが見られた。環境美化に対する意識が向上したと評価することができる。

大人たちの場合：

アンケート硬毛は、大きく、A) 展示発表会について、B) 肥前浜宿のこれからについて、C) 水とまちなみの会について、である。その結果を示すと以下のようである。

A) 展示発表会について

A-1: 全体的にどう思ったか

とてもよい（34 名）、よい（15 名）、ふつう（3 名）、あまりよくない（0 名）であり、高い評価を得ることができた。

A-2: 会場設営についてどう思ったか

とてもよい（23 名）、よい（23 名）、ふつう（3 名）、あまりよくない（0 名）であり、全体的なことより若干評価が下がったが、よい以上が 90% を超えており、かなり高い評価を得ることができた。

B) 肥前浜宿のこれからについて

B-1: 町並みについて（複数回答可）

歴史的建物が多く価値がある（43 名）、宿場町としての町並みを感じさせる（33 名）、町中を流れる水路

が印象的(13名) 道路が狭く危険(6名) 暗くて古ぼけてしまっていて住みたくない(0名)であり、町並みに対する評価が高いことが分かる。

B-2: これからどうすればよいか(複数回答可)

鹿島市の観光資源として生かす(42名) 浜宿独自の文化や伝統を生かす(38名) 歩く人に優しく車を排除させる(10名) 防災機能を高めて生活基盤を充実(3名) 高齢者を重視したまちづくり(2名)の順に高かった。鹿島市の観光資源としての存在価値を認める声が高く、そのために浜宿独自の文化や伝統を生かすべきであると理解することができる。高齢者を重視することがあまり高くなかったことは意外であるが、今回の取り組みで肥前浜宿のまちづくりが次世代につながるものであるという認識が得られた結果であると考えられよう。

C) 水とまちなみの会について

C-1: 会の存在について

よく知っていた(17名) 存在は知っていた(15名) 今回初めて知った(2名)であった。

C-2: 活動内容について(回答者34名)

よい(27名) どちらでもない(4名) 分からない(2名) 悪い(1名)の順であり、回答者の約80%がよいと考えていることが分かる。

C-3: 入会したいか

はい(6名) いいえ(5名) 今は決められない(19名)であり、活動には高い評価を得ているが、入会自体にはまだ判断できない状況であることが理解できる。

以上のアンケート結果より、肥前浜宿独自の優れた歴史的環境を生かしたまちづくりに期待が寄せられており、肥前浜宿水とまちなみの会の活動、そして今回の内容は高い評価を得られていることが分かった。

子供と一緒にまちづくり!「先進地視察 in 八女」

日 時: 2004年3月14日(日) 8:30~16:00

対象地: 八女市福島地区(雛祭り実施中)

参加者: 浜小学校70名、水とまちなみの会25名、鹿島市生涯学習課1名

日 程: 8:15 富久千代酒造 集合

8:30 浜 出発(高速道路経由)

バスの中で八女福島地区の概要説明(三島、加田)

10:00 八女到着<八女伝統工芸館>

北島氏(八女市まちなみ担当)出迎え

10:15 北島氏、八女の見所等について説明

11:00 グループ行動

雛の里・八女ぼんぼりまつりなどの見学

横町町家交流館などの視察

昼食(八女公園)

14:30 八女出発(高速道路経由)

バスの中でアンケート回収

16:00 浜 到着



次年度の準備

スケッチ大会のポスター作成：

鹿島市美術人協会と共催で行うスケッチ大会のポスター・ちらしについては、例年通り「かよ」に委託することになった。

第3回肥前浜宿花と酒まつりの準備：

2003年11月20日 実行委員会の立ち上げ以降、計7回

第3回花と酒まつり実行委員会(第1回)(日時：11月20日20:00-22:00、場所：継場、参加者：7名)

- 1) 第1回～2回の反省、総括
- 2) 組織、役割の確認
- 3) 第3回花と酒まつりの基本的な考え方について
- 4) 今後のタイムスケジュール

第3回花と酒まつり実行委員会(第2回)(日時：12月4日20:00-22:00、場所：継場、参加者：11名)

- 1) 花と酒まつりのコンセプトについて
- 2) 前夜祭について
- 3) 第3回花と酒まつりの全体企画について

第3回花と酒まつり実行委員会(第3回)(日時：12月22日20:00-22:00、場所：継場、参加者：9名)

- 1) ポスター、チラシについて 見積書の検討
- 2) 食・花・物産展のやり方について
- 3) 各酒蔵会場でのイベント
- 4) 広報について
- 5) 企画書の提出について 1月10日までに提出

第3回花と酒まつり実行委員会(第4回)(日時：1月13日20:00-22:00、場所：継場、参加者：9名)

- 1) ポスター・チラシ掲載事項について
- 2) 花咲き市場(フリーマーケットについて)
- 3) 前夜祭の内容について
- 4) 各酒蔵会場のイベントについて
- 5) その他のイベント

第3回花と酒まつり実行委員会(第5回)(日時：2月2日20:00-22:00、場所：継場、参加者：9名)

- 1) 各酒蔵のイベントについて
- 2) 県内34蔵新酒飲み比べ
- 3) 広報活動について

第3回花と酒まつり実行委員会(第6回)(日時：2月19日20:00-22:00、場所：継場、参加者：9名)

- 1) 前夜祭について
- 2) 新酒まつりについて
- 3) 鑑定団
- 4) 全体タイムスケジュール
- 5) 広報活動について 進行確認

第3回花と酒まつり拡大実行委員会(日時：3月9日20:00-22:00、場所：継場、参加者：計18名)

- 1) 花と酒まつりのイベント概要について
- 2) 役割分担
- 3) タイムスケジュール
- 4) 今後の予定

(4) 活動の成果

肥前浜宿水とまちなみの会では、既に前述したように、次世代を担う子供たちのまちづくり意識を高め、そこから住民の意識をさらに高めるために、今年度の活動におけるスローガンを「子供と一緒にまちづくり！」に定めて活動している。今回の活動目的も、そのスローガンに沿って、以下のよう

に定めた。

- ・ 浜小学生が浜町研究を行うのを支援すること。
- ・ 浜小学生がその成果を発表する機会をつくること。
- ・ 肥前浜宿のよさを浜町の大人と子供が共有すること。
- ・ 肥前浜宿独自の伝統的建造物と生活文化を生かすまちづくりについて、より多くの浜町住民ならびに鹿島市民の賛同を得ること。

これらの目的と今回の活動内容結果とを照らし合わせると、活動の成果は以下のようにまとめることができる。

- 1) 子供たちの浜町のことを知りたい、あるいはよくしたいという気持ちを向上させ、肥前浜宿に対する思いを高めさせることができた。
- 2) 子供たちが浜町研究などを通じて感じた肥前浜宿への思いを大人たちも知ることができ、肥前浜宿の伝統的環境のよさを再認識することができた。
- 3) 鹿島市の観光資源として生かすべきであるという意見にあるように、鹿島市共通の財産としての認識ができてきた。
- 4) 他の町の取り組みを子供と大人と一緒に見る機会をつくったことにより、浜町の独自性を改めて認識することができた。

(5) 今後の展開

昨年10月の秋の酒蔵コンサートでは、鹿島実業高校の生徒によるファッションショーを行った。また、5月には鹿島市美術人協会との共催で行われるスケッチ大会が実施される。これは、次世代を担う子供たちに、自分達の取り組みを発表する場として酒蔵を提供し、かつ、本物のよさ/文化に触れ、観察し、考える機会を与えることを目的としている。このように、子供たちができるだけいいものに触れることは、本物やよりよいものを見る目あるいは知る心を育て、将来の文化の向上にも役立つ。これからも、こうした取り組みを継続し、繰り返していくのが今後の展開である。

(6) 活動のポイント

・ 活動の人材

今回の活動で最も重要な役割を果たした人材は、浜町で生業を営む人々と浜小学校教員である。

まず前者であるが、肥前浜宿には、かつて有明海にそそぐ浜川河口部に形成された港を中心に栄えた港町であったこと、それと長崎街道の接点として宿場町が形成されたことを背景に、多くの職業がある。のり養殖、牡蠣、ムツゴロウなどを始めとする漁業、酒造や漬物・醤油・かまぼこなどの食品加工業のほか、板金職人などが伝統的建造物を支える技術としても存在している。このような人材が身近にいることは子供たちが町のことを知る上でも重要であり、今回でも様々な面で協力してもらった。

次に後者については、総合学習の一環として、浜町研究を取り上げてくれたことが大きかった。そして、鮎市に合わせた発表展示会への協力（子供への指導、作品展示など）、バスツアーでの引率など、様々な点で協力していただいた。子供たちとの交流は、これからのまちづくりについて重要であるが、小学校との信頼関係そして協力関係を築かなければ成り立たないことを改めて感じた。

最後になったが、もちろん、水とまちなみの会に所属する会員の協力も欠かせなかった。会場設営だけでなく、子供たちからの質問にも答えるように町の歴史に関する勉強を重ねている。こうした日々の努力が行われる気持ちが育ちつつあることも大きい。

- ・ 活動のための資金調達

現在は、継場の管理運営資金として鹿島市から委託を受けている（年間100万円程度）。会員の中で継場の清掃やボランティアガイドを行ってくれる人に対しては、わずかであるが謝礼を支払っている。この継続は重要であるが、削減の方針を市から示されていることも含めて、資金不足は否めない。

そのため、年度における活動においては、今回のような調査事業や助成への応募や、春と秋の酒蔵コンサートなどのチケット収入がその他の活動資金源になっている。

- ・ 活動のネットワーク・支援

活動のネットワークとしては、NPO 法人全国まちなみゼミの会員として、他の歴史的町並みとの横のネットワークを構築している。年に1度の全国大会等にも参加し、交流を深めている。

また、浜川河川改修、伝統的建造物群保存地区・街なみ環境整備事業について、それらに対する住民意志の反映を図りながら推進するために、佐賀県・鹿島市が浜川河川改修協議会、肥前浜宿まちづくり協議会を立ち上げており、その構成員としても検討を行っている。まちづくりに対する子どもの意志も反映させたいと考えている。

その他、地元の団体との関係で言うと、肥前浜宿水とまちなみの会は浜町振興会の一組織として位置づけられている。浜町振興会には、区長会、婦人会、商工会などがあり、まちづくりに対する協議も行っている。今後は、横の連携をさらに機能させることが課題である。